

年 頭 の ご 挨拶



鹿児島市医師会病院 院長

園 田 健

皆様あけましておめでとうございます。

猛威を奮ったコロナもようやく沈静化し、緊急事態宣言及び蔓延防止等重点措置は9月30日をもって全都道府県で解除されました。その後の感染再拡大が危惧されましたが、信じられないほどの穏やかさで、東京でさえも1Wの10万人当たり感染者数は2.5人を超えないほどです。急激な減少の原因は定かではありませんが、人流制限・ワクチン効果・感染対策の徹底以外に、コロナの変異ミスによる自滅説が急浮上しております。一方、“ワクチン効果により感染していても発症しないためPCR検査まで至らないことから一見感染者が少ないように見える”などの見方もあります。世界を見渡すと自国のワクチンに信頼度が低く、接種が思うように進まないロシア・中東欧では感染の再拡大や死者数が過去最悪水準に達するなど、感染再拡大の脅威がくすぶっていると思われます。37万にも及ぶとされる待機中の外国人入国には、厳重な防疫措置による万全な水際対策が必要です。さらに早急な第三回目のワクチン接種はもちろん、大人数での飲食・不要不急の頻回な移動を避けるなど個々人がしっかりとした行動をする必要があるとおもわれます。

当院のコロナ病棟も10月以降鹿児島県のス

テージ改善を受け2床での対応に戻し11月19日以降は0床としております。患者様の精神的苦痛となっている面会禁止についても10月28日から軽減し、流行警戒地域以外であれば県外からの入館も可能といたしました。今後の状況を見定めて迅速に制限の解除などを図っていく予定です。これにより入院患者さんの生活環境にも好影響が期待できると思っております。

感染下の東京オリンピック・パラリンピックは賛否相半ばする中での開催でしたが、アスリートの懸命に努力する姿が連日報道され、コロナに鬱屈とした生活を余儀なくされていた方々に大きな勇気と希望を与えてくれました。

政治面では繰り返す緊急事態宣言や自宅待機患者の死亡などを政府の無策と責める論調に押され、自民党は総裁選挙で菅総理大臣が立候補を断念。岸田・河野・野田・高市4氏による選挙の結果岸田さんが総裁に就任するや否や国会での首班指名と施政方針演説もそこそこに衆議院総選挙に雪崩を打って突入しました。安倍さんの説明責任や新たに就任した甘利幹事長の政治と金の問題から選挙戦前半は野党共闘（立憲民主党と共産党市民連合）が優位と目されておりましたが、ふたを開けてみると自民党の安定多数・立憲民主党は10

数議席を失いました。話題の甘利幹事長は地方区で敗れ幹事長を辞任しましたが、枝野代表も責任をとり代表辞任に追い込まれるという結果となりました。

日本を取り巻く環境では中国・ロシアは狭い津軽海峡をぬけそのまま列島を一周、鹿児島県大隅海峡を通過するという暴挙に及び、東アジアに覇権拡大を画策し、尖閣諸島における領海侵犯や空軍による最大10時間に及ぶ長時間の監視飛行などの示威行為をあからさまにしております。

中国経済においては不動産最大手の一角“恒大集団”の経営不振が明るみになり中国版リーマンショックとなるのではないかとされました。これは中国の諸外国に対する金融マーケットの規制緩和に伴い、外国投資家が西側に対する以上の投資を行っているため、バブルがはじけた場合にはその影響は中国にとどまらず世界に飛び火すると推測されています。コロナ禍のなかこっそりすり抜け独り勝ちの中国がまた自国の火事から世界を混乱に陥れむしろその間に中国の覇権を確立させようとしているのではないかとみる向きもあり、軍事・経済の両面から覇権確立に精出している中国に目が離せない状況です。

さらに北朝鮮はアメリカに対するアピールという形で潜水艦からのミサイル発射実験を成功させ、防衛の脅威は否応なく増してきております。韓国も大統領選が進行し、どのような結果となるか注目すべきですが、いずれにしろ日米韓の連帯が地域の安定には不可欠と思われるその動向に注意が向けられる必要があります。

さて当院は現在コロナ対応病床を一旦0床に、HCUをもとの8床、急性期病床112床地域包括ケア病床26床、緩和ケア病床31床合計177床で運用しております。コロナ後を見据えて、強みである婦人科内視鏡手術・緩和ケ

ア・在宅患者への対応のほか、地域医療構想の観点から新興感染に対するサージケアを考慮した病床機能を考慮した体制作りが必要と思われます。自院の人材・機材のみでは必ずしも十分な対応ができないことも考えられ、他の公的病院との機能的な統合や、病床の共有など積極的に検討していく必要があると現時点でも考えております。

昨年もコロナ禍のため定例の医師会連携施設との懇談会を開催することができませんでしたが、今後も可能な限り情報を発信して連携を強化してまいりたいと思います。

上半期の経営状況は、PCRセンター・コロナ病床などの運用による収入増加もあり、キャッシュベースで何とか黒字の状況です。

スタッフは消化器内科が常勤医師5人で、検査など余力がございませう。脳神経内科は6人体制です。そのうちコロナ対応で活躍された能勢先生は現在、感染を含め本来の総合内科診療を行っていただいておりますのでご利用ください。循環器は鳥居先生に嘱託として残留いただき山口診療部長・藤田部長および医局派遣の精鋭とともに急患を受けいれ、病床稼働目標を達成し続けています。外科は大迫副院長以下6人のスタッフで充実しております。いうまでもなく今まで同様急な発熱などに対してはいつでも対応いたします。連携室を通じてご相談ください。

医師会病院は開院以来紹介型病院の基本姿勢を貫いてまいりました。繁栄も衰退も医師会員の皆様のお考え次第です。なにとぞ今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

基幹型研修医には現在2年目の吉永先生に一年目の久保先生が加わり二人体制となっております。

以上、医師会病院が皆様とともに地域医療のニーズにお応えしていけるよう努力する決意を新たに致しまして年頭のご挨拶といたします。今年もご支援をよろしくお願いいたします。